

## 第56回日本人工臓器学会大会 大会総括

第56回日本人工臓器学会大会大会長、北海道循環器病院先進医療研究所

山崎 健二

Kenji YAMAZAKI



第56回日本人工臓器学会大会を、ヒルトン東京お台場(東京都港区)で2018年11月1日～3日に開催させて頂いた。今回はISMCS: International Society for Mechanical Circulatory Support (2018年10月31日～11月2日, 主催: 東京大学 小野 稔教授)との合同開催で行った。大会テーマ「DREAM IS ALIVE」は、スペースシャトルのドキュメンタリー映画のタイトルに由来する。悲劇的な事故により長期間中断されたプロジェクトだが、膨大な検証と改善・改良を積み重ね、ついに再打ち上げに成功するといった感動的な内容であった。最後に映し出された宇宙船から見た静謐な地球の美しさは忘れがたいものであった。「夢」こそが、あらゆる困難や障壁を乗り越えイノベーションを実現する原動力なのだと思う。近年、技術革新の速度はますます加速しており、特に人工知能(AI)の領域では既に人間の頭脳を超えたAIが出現している。2045年には、AIにより人類の進化速度が無敵大となる「技術的特異点: シンギュラリティ」に達するとされている。また画期的なiPS技術の確立や、圧倒的に簡便で高効率な遺伝子編集技術「CRISPR-Cas9」の実用化により、人類は生命そのものをデザインする根源的領域に踏み出した。このような人工臓器関連領域における技術革新が複合的に合わされば、近未来に人類文明に計り知れない変化をもたらすものと思われる。

第56回大会ではこれらのイノベーション・トピックスにフォーカスを当て、特別講演・招請講演・基調講演で計10名の演者を招き、循環器・代謝・広領域の各分野で5つのシンポジウム、5つのパネルディスカッション、6つの

ワークショップ、5つの委員会企画プログラム、5つのランチョンセミナーを企画致した。理事長講演、大会長講演、大会長審査講演、JSAO Grant・技術賞・論文賞受賞講演、18の一般口演、12のポスターセッション等も併せ、計238の演題応募と、計1,147名の御参加を頂いた。関連研究会・セミナーでは、第24回日本臨床補助人工心臓研究会(JACVAS) 学術集会、第12回JACVAS補助人工心臓セミナー・講習会・ハンズオン、J-MACS説明会、第8回Destination Therapy (DT) 研究会、体外循環セミナーがそれぞれ盛況に開催された。

本大会において表彰された受賞者は、以下の通りである(図1～3)。

大会賞最優秀賞: 片桐伸将氏

大会賞優秀賞: 櫻井 一氏, 宗景匡哉氏, 山南将志氏

技術賞: 巽 英介氏

論文賞(循環系): 飯塚 慶氏, 松橋祐輝氏

論文賞(代謝系): 橋田知明氏

Yoshimi Memorial T.M.P. Grant: 有吉洸希氏

Grant-MERA: 今村輝彦氏

萌芽研究ポスター賞

最優秀賞3名: 本多哲也氏, 吉村知紗氏, 流石朗子氏,

優秀賞6名: 西岡潤司氏, 石丸佳樹氏, 近藤和樹氏,

神保有紀氏, 藤本実和氏, 中渡瀬京加氏

大会1日目には日本人工臓器学会・ISMCS合同のGala Dinner が盛会に催され、様々な人工臓器に関わる参加者が、基礎・臨床の枠組みを超えて情報交換と親交を深めた(図4)。大会2日目には人工臓器学会会員懇親会が催され、各受賞者の表彰を行い、上記受賞者の表彰を行った。特に、萌芽研究ポスターセッションの若手受賞者達の晴れやかな笑顔は大変喜ばしく、将来人工臓器研究の頼もしい担い手になるものと大いに期待を抱かせた(図3)。自身の大会長

### ■ 著者連絡先

北海道循環器病院先進医療研究所

(〒064-8622 北海道札幌市中央区南27条西13丁目1-30)

E-mail. yamaken964@gmail.com



図1 大会賞受賞者

最優秀賞：片桐伸将氏(左上)  
優秀賞：櫻井 一氏(右上), 山南将志氏(左下), 宗景匡哉氏(右下)



図2 JSAO

技術賞：巽 英介氏(上左)  
論文賞(循環系)：飯塚 慶氏(上中), 松橋祐輝氏(上右)  
論文賞(代謝系)：橋田知明氏(下左)  
Yoshimi Memorial T.M.P. Grant：有吉洸希氏(下中)  
Grant-MERA：今村輝彦氏(下右)



図3 萌芽ポスター賞受賞者

最優秀賞3名：本多哲也氏, 吉村知紗氏, 流石朗子氏  
優秀賞6名：西岡潤司氏, 石丸佳樹氏, 近藤和樹氏, 神保有紀氏, 藤本実和氏, 中渡瀬京加氏



図4 盛況なJSAO・ISMCS合同Gala Dinnerの様子

上段：小野 稔教授と筆者, 下段：会場風景

講演では終了後、会員の皆様から大変温かい拍手を頂き、ありがたく、また皆様の御厚情が身に染みる思いであった。

### 謝 辞

本大会を企画・運営するにあたり、多くの先生方大変お世話になりました。東京大学の小野 稔教授、木村光利先生、東京女子医科大学の齋藤 聡先生、早稲田大学の梅津光生先生、岩崎清隆先生、札幌北楡病院の米川元樹先生、理事・評議員・プログラム委員会の先生方、座長の先生方、

演題応募頂いた先生方、日本人工臓器学会事務局の太田氏、北海道循環器病院のスタッフ、ご協賛頂いた企業の皆様、イービーエム株式会社の朴 栄光氏、ならびに日本コンベンションサービス株式会社の茶谷勇二氏をはじめスタッフの皆様には厚く御礼申し上げます。

また本大会を後援頂いた、産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム(OPERA)に謝辞申し上げます。

本稿の著者には規定されたCOIはない。